

鱗形

前

ワキ

北条時政

ワキヅレ

時政従者

シテ

女人

後

シテ

弁財天

地は

相模

季は

雜

「八百万代を治むなる。／＼。弓矢の家ぞ久しき。

詞

「そもそも是は北条の四郎時政にて候。我弓矢の家に生るゝといへども。いまだ旗の紋定まらず候ふ程に。江の島の弁財天に此事を祈り申さん為め。唯今参詣仕り候。

サシ

「それ弓矢は天地陰陽をかたどり。七徳五行の姿なり。

ワキ

「されば神農の作りし桑の弓。怨敵破戒を滅ぼして。

ワキ

「國家の為となすとかや。

一同「又は仏法王法の。／＼。静かなる国となる事も。一張の弓の勢。月心にあり。是ぞ真如の楓弓の。悪魔もいかで恐れざる。／＼。

ワキ詞

「急ぎ候ふ程に。是は早江の島に着きて候。まづ

＼＼社壇に参らばやと存じ候。

シテ詞

「なふ＼＼時政に申すべき事の候。

ワキ詞

「不思議やな人家も見えぬ方よりも。女性一人顕は

れて。我名をさして宣ふは。何といひたる事やらん。

シテ「愚かの仰せ候ふや。年月歩みを運びつゝ。信心深き其故に。望みをかなへ申さん為め。是まで顕はれ來りたり。

ワキ「そもそも望みを叶へんとは。如何なる人にてましますぞ。

シテ「いや我名をば名乗らずとも。御身信の志深く。

ワキ「神を敬ふ恵みにて。

シテ「国も豊かに。

二人「民榮え。

地「治まれる。御代のしるしも今更に。く。見えて榮ふる蘆原の。国なれや降る雨も。時をたがへぬ此君の。千年をかけて御注連縄。永くも代々を守るなり。く。

ロンギ地「實にや誓ひの数々に。御代を守りの御告とは。如

何なる人におはします。

シテ
「今は何をか包むべき。我此島に跡を垂れ。

地
「潮の落つる暁は。沖の鷗に心そへ。汀の千鳥鳴く
田鶴も。和光の影の数々に。かき集めたる藻塩草。
夜の汀を待ち給へ。望みを叶へ申さんと。いふか
と見えて其まゝ。社壇に入らせ給ひけり。く。

(中入)

地
「御殿しきりに鳴動して。日月光り雲晴れて。山の

端出づる如くにて。顯はれ給ふ有難さよ。

後ジテ
「我は是れ此島を守護し衆生を助くる。胎蔵界の弁
財天とは我事なり。

地
「晴れたる空に旗さしの。名も久方の月の桂も。手
に取るばかり弓矢の。家を守りのしるしそと。時
政に旗をたび給ひ。数々の童子神樂の役々。月も
照り添ふ花の姿。雪を廻らす袂かな。

シテ
「謹上。

地
「再拝。 (神樂)

かくて夜遊も時過ぎて。く。我世の中にあらん
程。たとひ四敵の寄せ来るとも。此旗をさし上げ
ば。我神通の身を現じて。六通三明の剣を引っ提
げ。無明懺悔の敵を払はゞ。其身も息災安穏なる
べし。唯信心を致すべしと。あらたに神託なし給
ひ。天女は御殿の扉をひらきて。御帳の内にぞ入
り給ふ。